

# 寺下改め丹蔵たんぞう 十両昇進を決め 故郷に錦

『丹蔵のせがれ』が『丹蔵関』に。

日本相撲協会は7月25日、大相撲秋場所（9月9日初日、両国国技館）の番付編成会議を開き新十両を発表。寺下改め丹蔵の十両昇進が正式に決まった。第6代横綱阿武松緑之助を生んだ相撲どころが、関取誕生に沸いた。

## 屋号「丹蔵」をしこ名に

「勝ち越しを決めた瞬間は、土俵で涙をこらえるのに必死だった」

5月場所で幕下全勝優勝を果たし、名古屋場所で関取を狙った能登町出身の寺下（阿武松部屋）。3勝2敗で迎えた11日目に勝ち越しを決め、十両昇進をほぼ手中にした。

7月25日、寺下を含む新十両6人が発表され、寺下はしこ名を『丹蔵』に改めた。『丹蔵』は宇出津で代々漁師だった実家の屋号。丹蔵は子どもころから『丹蔵のせがれ』と呼ばれてきた。

「入門したときから、関取になったらしこ名を『丹蔵』にしよう」と決めていた。大好きな能登町で親しまれたこの

名前を大きくしたい」と記者会見で意気込みを見せた。

能登町は古くから相撲が盛んで、第6代横綱阿武松緑之助を生んだ相撲どころ。現在も、能登町から5人の若者が大相撲の扉をたたき関取を目指していた。その先陣を切った丹蔵。石川県出身力士として、16年ぶりの関取となった。

## 大けがを乗り越え つかんだ関取

能都中学校を卒業後、金沢市立工業、東洋大を経て平成19年に阿武松部屋に入門。3月場所で初土俵を踏んだ。

序の口、序二段、三段目、幕下と順調に番付を上げていたが、20年9月の秋場所で右足じん帯断裂の大けが。治療にはほぼ一年を要した。「相撲を始めた小学校2年



【写真上】新十両発表2日後の7月27日に帰郷した丹蔵。父富士夫さん、相撲協会役員らと議会庁舎を訪れ、町議会議員に昇進を報告して祝福を受けた。  
【写真中】能都庁舎での報告会には多くのマスコミが詰めかけた。持木町長は「これからさらに精進して上を目指してほしい」と激励。  
【写真下】十両昇進を祝う懸垂幕が役場正面に飾られた。

から、関取になることが夢だった。絶対にあきらめたくなかった」

21年9月場所に復帰し、再び序の口から番付を上げた丹蔵。入門6年目、学生相撲出身者として5番目に遅い32場所での十両昇進となった。

「これまで地元の応援がすごく力になった。今後は皆さんに力を与えられる力士になりたい。まずは幕内。結びの一番で横綱を倒したい」

古里への思いを胸に夢をかなえた丹蔵。新たな夢に向かって番付を駆け上がる。



## 【丹蔵隆浩（たんぞう・たかひろ）】

本名：寺下隆浩  
生年月日：1984年5月5日（28歳）  
身長：188cm 体重：150kg  
出身：能登町字崎山  
所属部屋：阿武松部屋

小学校2年で相撲を始める。6年生で全日本小学生相撲優勝大会で優勝し小学生横綱。能都中学校時代に都道府県大会3位。金沢市立工業高校に進学して2001年宮城国体で個人優勝。高校卒業後は東洋大学に進学。2007年、阿武松部屋に入門し、同年春場所で初土俵を踏む。大相撲での戦歴は114勝56敗47休（32場所）。

## 丹蔵関をみんなで応援しよう!

「丹蔵のと後援会」については31頁まで